

2021年1月12日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、全体として持ち直しの動きが続いている。

輸出は、持ち直している。設備投資は、増勢が一段と鈍化している。個人消費は、サービス消費は依然として低水準となっているが、全体として持ち直しの動きが続いている。住宅投資は、緩やかに減少している。公共投資は、増加している。こうした中で、生産は、持ち直している。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。この間、企業の業況感は、徐々に改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、持ち直している。

設備投資は、増勢が一段と鈍化している。

個人消費は、サービス消費は依然として低水準となっているが、全体として持ち直しの動きが続いている。

家電販売額は、持ち直している。百貨店販売額、スーパー等販売額、乗用車販売は、持ち直しの動きが続いている。外食売上高、旅行取扱額は、依然として低水準となっている。

住宅投資は、緩やかに減少している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、持ち直している。

内訳をみると、輸送機械関連を中心に持ち直している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半のマイナスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金や個人預金の増加を背景に、前年比8%台後半のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けの資金繰り支援融資の増加を主因に、前年比5%台後半のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上